

## まえがき

京都大学防災研究所技術室長 高橋 秀典

京都大学防災研究所技術室の2016年度の活動成果をまとめた技術室報告第18号が完成しました。

この技術室報告を読んでいただくことによって、それぞれの技術職員の2016年度における技術支援実績や、それぞれの技術職員が持つスキルなどの一端を、知っていただけると幸いです。

1996年5月に設置された防災研技術室の歴史は20年を越えました。その後、技術職員の世代交代が進みましたので、技術室が設置された当初の様子を知る技術職員はおりません。現在、技術室に在籍する技術職員は採用された時点で技術室が存在し、技術室という組織が当たり前の存在になっています。防災研技術室が、全学的に見て最も整備された技術職員の組織である理由の一端は、この歴史の長さにあると考えています。

2016年度は4月に3人の新人を迎えて、当初は20人体制でスタートしました。2016年12月からは、高橋の総合技術部次長併任に伴って措置された再配置定員を使って、特定職員（山部天資、敬称略）が1人加わりました。防災研技術室の人員が最多だった時代に比べると、それでも3分の2という水準です。人員的な面ではかつてに及ぶべくもありませんが、われわれ一人ひとりが技術と技能を磨き続け、防災研所内の技術支援のニーズに対して、質の面で応えていくことが、何よりも大事なことだと思っています。そのために、学内外の研修や講習などを積極的に受講し続けていきます。

防災研技術室は、これからも教員の方々、事務部の方々に、ご理解と一層のご支援をいただけると期待しておりますので、よろしく願いいたします。

末筆になりましたが、技術室報告第18号の取りまとめに当たってご協力いただいた皆さんの労に深く感謝いたします。